

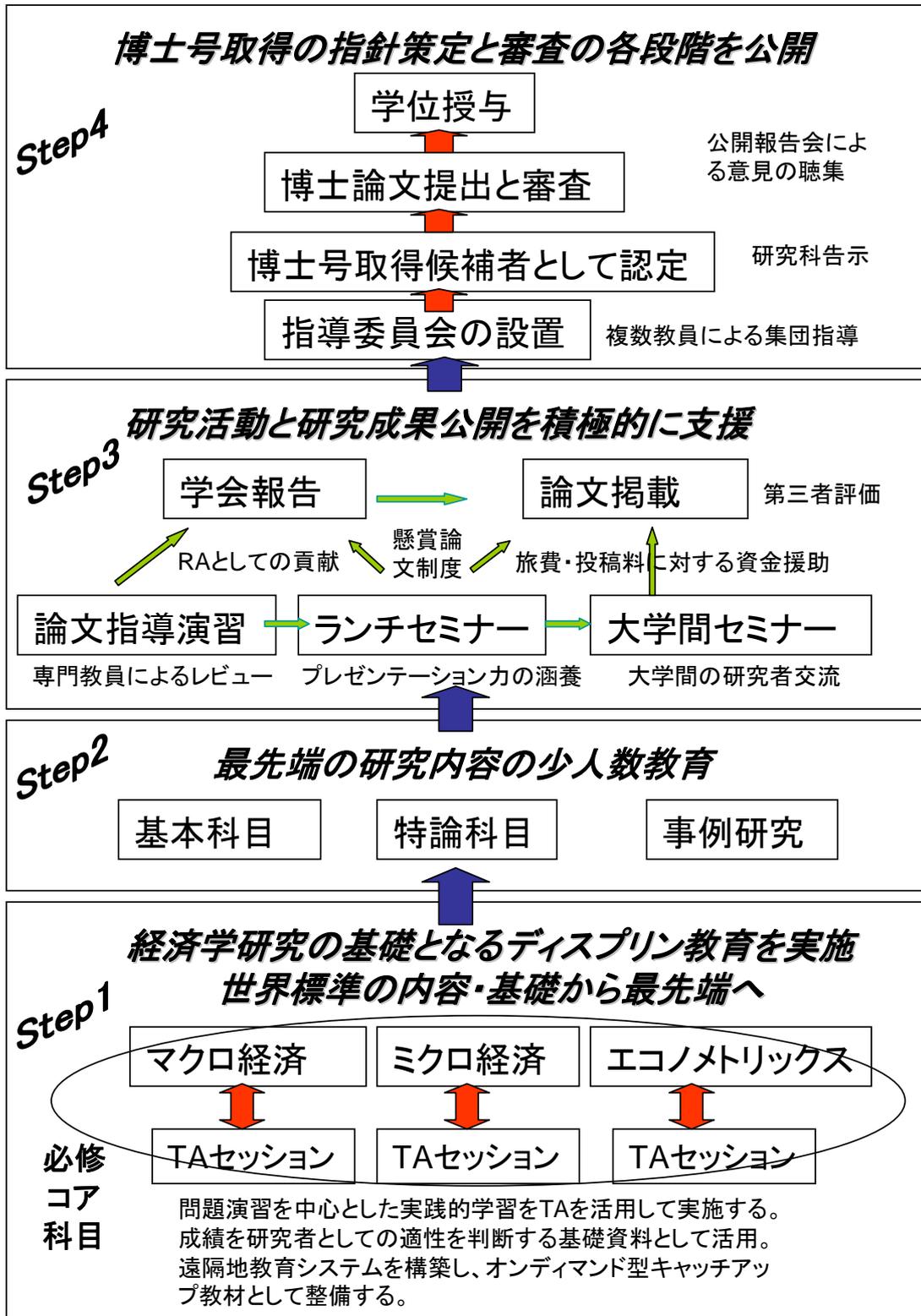
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	大阪大学	整理番号	a017
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	存在感ある若手研究者養成のための教育改革 (大学院経済学教育のグローバルスタンダードを目指して)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 経済学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (マクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学、経済政策、公共経済学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 経済学研究科経済学専攻〔博士前期課程〕 〔博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名 永谷 裕昭	
	(その他関連する研究科・専攻名) 経済学研究科政策専攻〔博士前期課程〕 〔博士後期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>経済学研究科は、大阪大学における社会科学の重要な役割を担っており、さらに21世紀COEプログラムにおいて研究拠点としても採択され、その研究成果も日本だけでなく世界からも注目を浴びている。経済学大学院教育のグローバルスタンダードを目指す本教育プログラムは、経済学分野の若手研究者の養成を目指すものであるが、本学における高度専門的な経済学大学院教育の成果は、社会科学だけでなく、人文系・理系・医学系の広い分野へスピルオーバー効果が期待される。すなわち、社会制度の持つ経済的影響評価だけでなく、科学技術の進展の社会的影響評価、限られた資源制約下での教育研究活動の効率化など、今最も求められところであり、グローバルスタンダードを目指す経済学大学院教育プログラムの遂行は、大阪大学における教育研究活動のさらなる発展に大きく寄与すると考える。</p>			

機 関 名	大阪大学	整理番号	a017
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>大阪大学大学院経済学研究科は、大学院重点化以前から、我が国の経済学大学院教育のスタンダードとして、大きな役割を果たしてきた。特に、欧米の大学院と同じく、「マクロ経済」、「ミクロ経済」と「エコノメトリックス」のコア科目を一年次の必修科目とし、コースワークを中心に経済学の幅広い先端的研究に即応できる人材を養成し、大学および研究機関に有為な人材を提供してきた。コア科目は経済学のディスプリン教育として大学院教育の根幹をなすが、厳密な成績評価を実施することで、スクリーニングの役割も果たしている。さらに、学位取得のための指針を作成し、それに基づき段階を踏んだ指導体制を充実させて課程博士号取得学生を輩出し、経済学研究の発展に大きく寄与してきた。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>存在感のある若手研究者を養成するために、ステップ1～4の段階にしたがって、大学院経済学教育のグローバルスタンダードを目指した教育プログラムを実施する。</p> <p>ステップ1では、「マクロ経済」、「ミクロ経済」と「エコノメトリックス」を一年次に必修コア科目として開講し、TAセッションを活用することで、問題演習を中心とした実践的教育を実施し、最先端の研究を遂行する経済学研究のディスプリンを涵養する。教授内容も、グローバルスタンダードに基づいて標準化を図り、成績は研究者としての適性を判断する基礎資料として活用する。</p> <p>ステップ2は、経済学研究の最先端教育を少人数クラスで実施し、ステップ3では、大学院生の研究活動を支援し、成果公開の場を積極的に提供する。論文指導演習をはじめ、お昼のランチ時間帯を利用したセミナー、大学間のセミナーの場所を提供し、最先端のトピックスに触れさせ、プレゼンテーション力の涵養に努める。また、大学院生の活動への財政的支援を行う。支援の柱は、リサーチ・アシスタントとしての活用、懸賞論文制度、学会旅費と学会誌投稿料への資金的援助である。</p> <p>ステップ4は、課程博士号取得のために指針と審査の各段階を公開し、学位取得への道を明示する。審査では、学会報告や学会誌掲載による第三者評価を参考にして、複数名の教員で構成される指導委員会を発足して論文指導を行い、その成果が見られたと判断される場合には、博士号取得候補者として認定することでインセンティブを高め、博士論文が提出されたならば迅速な審査を行う。さらに、審査の各段階を公開することで、博士号取得を目指す学生に対して指針を与える。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	大阪大学	整理番号	a017
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 635 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1016 1428 1238" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1016 1428 1144">・博士号取得者の輩出という点で実績のある研究科の専攻が、理論には実証分析の手法を、実証には理論を求めることを基本に、カリキュラムの体系化をさらに進める取組を行っている点は評価できる。また、大学院生への学会活動などの支援体制が整備されている点も評価できる。 <li data-bbox="165 1160 1428 1238">・ただし、e-learningシステムの活用が学内に限られているため、今後国際的な活動等への活用が期待される。 			